

# 銀山城と杉原氏

## 1. 杉原氏の出自について

「尊卑文脈」によれば杉原氏の出自は伊勢平氏と考えられる。

- 1) 国衙在庁官人説 【福山市史】、【広島県史】
- 2) 西遷新補地頭説 【新修 尾道市史】
- 3) 備後守護説 【三備史略】、【西備名区】

## 2. 杉原氏の系譜

- 1) 惣領家 八尾杉原氏
- 2) 庶子家 焼野杉原氏  
木梨杉原氏  
高洲杉原氏  
山手杉原氏

## 3. 杉原保の所在について

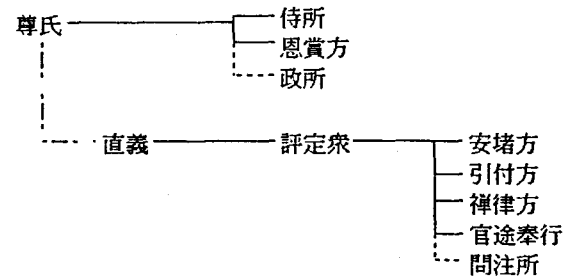
- 1) 御調郡梶山田説 【福山市史】
- 2) 原田村から木の庄に亘る地域 【広島県史】
- 3) 木の庄、美の郷、尾道、栗原等の地域 【御調郡史】
- 4) 現在の福山城域(城西の本庄村を含む一円) 【芸備地方史研究五五号】片山清氏

## 4. 幕府奉行人としての杉原光房

### 1) 足利直義と杉原光房

- ・「浄土寺文書」八七 「足利直義下知状」 相尋守護人細河刑部大輔頼春・梶原左近将監光房之處、
- ・「結城文書」 康永三年三月廿一日編成替え「引付番文」 五番 杉原左近将監  
康永三年三月 新設 「三方内談」 杉原左近将監

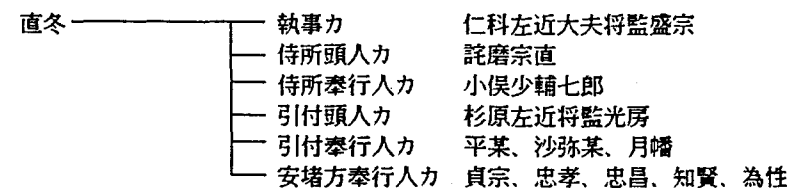
【室町幕府開創期の官制体系】



### 2) 足利直冬と杉原光房

- ・足利直冬の備後下向  
【師守記】貞和五年四月十一日条 「今曉左兵衛佐直冬下向西国、暫可被座備後国云々、是備後・備中・安木・周防・長門・出雲・因幡・伯耆等成敗之料云々、評定衆奉行人等多下向云々」
- ・直冬引付方としての杉原光房 …………… 引付方頭人カ  
【肥前修学院文書】貞和七年二月十八日 「杉原光房施行状」 前筑後守護職宇都宮常陸前司宛  
【肥前高城寺文書】観應二年六月十五日 「杉原光房奉書」 肥前守護職河尻肥後権守(幸俊)宛  
【浄土寺文書】八五観應二年六月廿九日 「杉原光房奉書」 宮下野権守(盛重)宛  
※観應二年三月、足利尊氏・直義の間に一時的な和睦が成立し、直冬も正式に「鎮西探題」となる。

【足利直冬の統治組織】



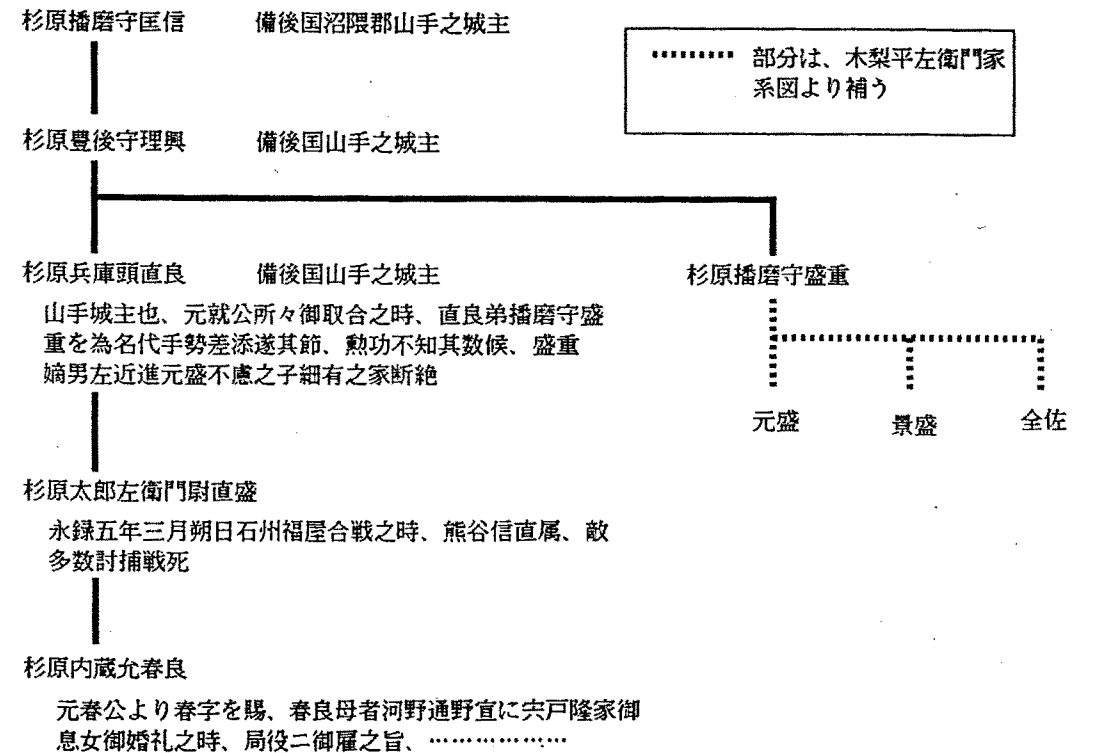
### 3) 侍所奉行人としての杉原光房

- 【祇園執行日記】観應三年五月七、八日条 杉原左近将監、祇園社より放火人の引渡を受け獄舎す。
- 【薩藩旧記】文和二年十月廿八日付「島津道鑑注進状案」の付記に梶原右近大夫とあるが、これは左近大夫の誤りで光房のことと考えられる。
- 【御評定衆着座次第】文和三年五月廿日、梶原左近大夫、三方内談披露奉行

## 5. 山手杉原氏の系譜

### 1) 山手杉原氏の系譜について

【「萩藩閥閥録」巻68 杉原与三右衛門】



### 2) 杉原理興(山名宮内少輔忠興)の出自について

- a. 「福山志料」  
姓は山名とも杉原とも称す。もと芦田郡八尾ノ城主にて、信平が裔なり。長門の吉川長兵衛の「備州旧記」の中に、「忠興神辺城主トナリ、芦田郡出口村八ツ尾ヨリ移ルト云」  
八ツ尾城主杉原基康 — 時興 — 忠興
- b. 「西備名区」  
八ツ尾の杉原にて土生村淵上と同派なり、信平の末なり、山手の杉原は為平の末なり。八ツ尾の杉原は、杉原姓の根本なれば、木梨の杉原は関東より帰り来りて後、木梨を給わり住せしなり。山名とは本州に事ありし時、先に杉原に約して本城とし在陣せし故、城内に別に館舎構えて在住し、代官を置く、これ宮田なり。山手の杉原は為平の末葉といい伝う。然るを忠興、山手より移るといふは、前に言えるごとく、盛重のことを誤り伝えしなるべし。忠興、八尾にありし時は山名といいしか、神辺の山名と敵となりたれば、本姓に復したりとみゆ。
- c. 「備陽六郡志」  
「八ツ尾の城は、山名宮内少輔理興の古城なり」
- d. 「福山市史」  
「杉原理興の出自については異説(福山志料は八ツ尾杉原の出と推定している)もあるが、大体山手杉原氏の出と見るべきであろう」
- e. 「山城志」第8集 「神辺城主山名理興の出自」: 田口義之会長  
元々理興は八尾杉原氏の出であったが、盛重がその跡を継いだことによって山手杉原氏の系譜の中に取入れられた、こう考えた方が良いのではなかろうか。そうすれば地元の伝承も生かされると思うのである。

### 3)「伯州の神辺殿」杉原盛重

#### a. 杉原盛重の神辺城相続（「陰徳太平記」巻三播磨守盛重継杉原家事

弘治三年(1557)三月五日に杉原理興が病死した。理興に子がなかったため、相続問題がおこったが、おこったが、吉川元春の強い推挙により神辺城の四番家老であった盛重が神辺城主の座についた。

#### b. 杉原盛重の室

弘治三年、神辺城主となってまもなく、盛重は毛利元就の姪を正室に迎え毛利家の縁族となっている。これ以後、盛重は吉川元春の右腕となり、山陰の毛利軍最高司令官となり活躍する。

#### c. 伯耆国尾高城と杉原盛重

永禄七年(1564)の末、盛重は伯耆尾高城城主に任じられる。これは前年の白鹿城攻めに盛重が抜群の働きをしたことの恩賞の意味もあったようである。尾高城は山陰の東西を結ぶ出雲街道と伯耆南部と備後を結ぶ輸送路の交点にあたり、当時の交通上の要衝であった。ここを任されると言うことは盛重に対する毛利家の信任の厚さが分かる。

#### e. 「伯州の神辺殿」杉原盛重

杉原盛重は、吉川元春に属して毛利軍の山陰方面司令官を務めていた。彼は、その活躍によって「伯州の神辺殿」と尊称されている。

(「萩藩閩閩録」巻五五 元亀元年(1570)「立雪斎恵心書状」国司就信宛)

#### f. 杉原盛重と山中鹿介

宿命の対決とも言える杉原盛重と尼子の忠臣と言われる山中鹿介との戦いは、盛重が尾高城主となって間もない永禄八年の春・富田城への物資補給を巡る弓ヶ浜合戦から始まる。これを初回として何度となく鹿介と盛重は戦いを繰り返すが、鹿介がいかなる戦術・戦略を用いようとも常に盛重には歯が立たなかったようである。後年、山中鹿介が悲劇の英雄と呼ばれる原因を作ったのは他ならぬ「盛重」であったようである。

#### g. 盛重の死と杉原家の断絶

杉原盛重が伯耆の八橋城内で病没するのは天正九年(1581)十二月二十五日である。盛重が家督を嫡子元盛に譲って八橋城に移るのは天正六年頃であるから隠居後、わずかに三年で病没したことになる。

天正十年、二男景盛は兄・元盛が羽柴秀吉に通じたとしてこれを謀殺し、家督を手に入れる。しかし、この真相を把握した毛利氏は、天正十二年八月、左陀城に景盛を急襲しこれを自刃せしめている。ここに備後の名族杉原氏は名実ともに断絶したことになる。

但し、盛重の兄とされる直良の家系は、萩藩土杉原与三右衛門家として存続している。この家系に「杉原文書」として、山手杉原氏のものと考えられる中世文書が伝来している。

### 6. 山手杉原氏と銀山城に関する仮説

#### 1) 山手杉原氏と八尾惣領家

山手杉原氏の後裔である毛利家家臣・相原与三右衛門家の末裔が、現在でも福岡県粕屋郡に在住しておられ、その家に山手杉原家のもと思われる中世文書が伝来している。所謂「相原文書」である。この文書の中に伝来の経緯が不明なものも五通ある。

- (1)「相原親光注進状案」『浄土寺文書』九一の案文
- (2)「室町幕府律方頭入奉書案」『浄土寺文書』八四の案文
- (3)「足利高氏書状写」島津上総入道(貞久)宛書状二通、内一通は「大日本史料」では元弘三年に比定されている。(色川本島津家文書)
- (4)「足利高氏感状写」島津上総入道(貞久)宛
- (5)「足利直義御教書」島津上総入道(貞久)宛

山手杉原氏の本梨相原系の相原為平であるが、何らかの理由でこの系統が絶え、惣領家の親光の系統が跡を継いだのではないのか。

- ・「案文」は「原文」の効力に即して作られる写であるから、別の家系に伝来するのはおかしい。
- ・島津家宛書状の写が存在するのは、相原惣領家(確証があるのは光房のみ)が幕府奉行人であった為、職務上何らかの機会にその写を作ったと考えられる。
- ・「浄土寺文書」八九の附箋に「當國木梨邑城主相原左近将監光房殿」とあり、惣領家の木梨庄への進出を思わせる。
- ・貞治四年に惣領家と思われる左近将監重尚の浄土寺宛の禁制(「浄土寺文書」三一)があり、惣領家尾道浦への進出を思わせる。

室町時代中期(15世紀)には、庶子家の所領が關所となった場合、惣領家へ返し付ける幕法が存在しており(「小早川家証文」一四二)、何らかの罪科を得て關所となった「相原為平跡」が惣領家に返し付けられたのではないのか。

また、山手杉原氏は庶子家木梨氏や高洲氏のように在地名を名乗らず、「相原」姓をとうしており惣領家と近い家系と想定される。

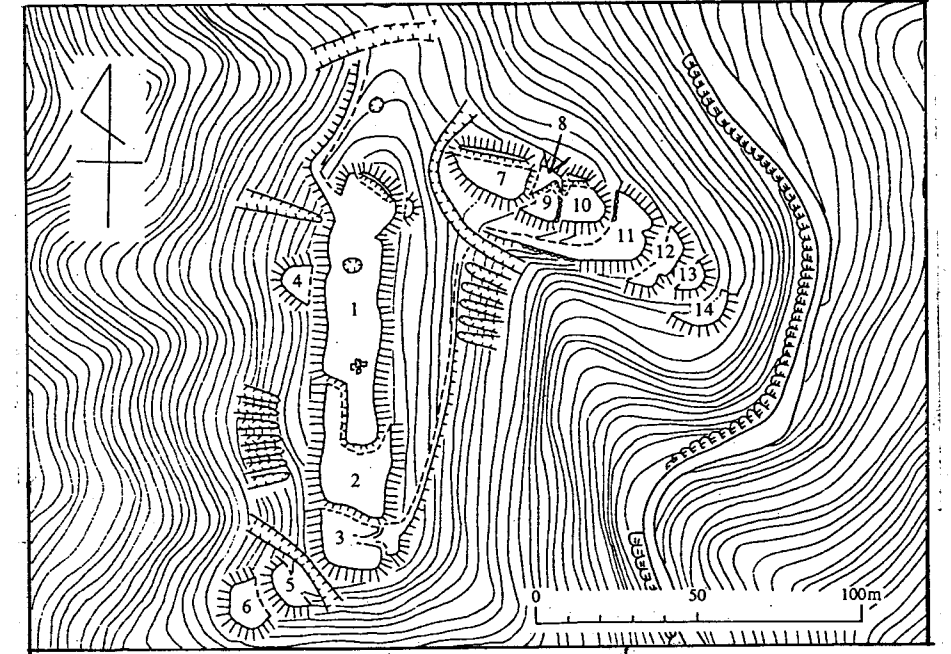
### 2) 山手杉原氏の所領と相原保

「足利義持袖御教書」 杉原又二郎為平三代の後胤とされる杉原文太郎光貞宛

- ・備後国木梨庄地頭職半分
- ・伊多岐社地頭職半分
- ・大田庄地頭職内倉敷尾道浦半分田畠屋敷
- ・杉原保内知行分残郷地頭職半分
- ・福田浜田

この内、所在が不明なものが相原保内知行分残郷地頭職半分が山手一带にあたるのではないだろうか。これが正しいとすれば、片山氏の言われるように福山城域一帯を相原保と考えて良いのではないのか。

### 7. 山手銀山城について



#### 【参考文献】

銀山城跡略側図 1/2500

- ・「広島県史」 中世(通史)、古代中世資料Ⅳ、古代中世資料Ⅴ
- ・「福山市史」上
- ・「新修 尾道市史」
- ・「広島県の地名」 日本歴史地名大系
- ・「室町幕府守護制度の研究」下 佐藤進一氏
- ・「室町幕府開創期の官体系」 佐藤進一氏
- ・「研究ノート 備後国杉原氏についての一考察」 福本 潤氏
- ・「尊卑文脈」 国史大系
- ・「萩藩閩閩録」
- ・「南北朝遺文」中国四国編、月報3付録「足利直冬と中国地方」 川添昭二氏
- ・「鎮西探題」足利直冬 九州における観応政変」 川添昭二氏
- ・「室町幕府侍所考」 羽下徳彦氏
- ・「相原文書について」 恵良 宏氏
- ・「備後国相原保私考」 片山 清氏
- ・「神辺城と藤井皓玄」 立石定夫氏
- ・「相原盛重」 立石定夫氏
- ・「八ッ尾杉原城主記」 杉原 茂氏
- ・「神辺城主山名理興の出自」、「八尾城と杉原惣領家」 田口義之会長 (「山城志」第8、13集所収)
- ・「備後神辺城主杉原盛重」 森本 繁氏 (「山城志」第8集所収)
- ・「杉原播磨守盛重」 壺嶽山大安寺護持会
- ・「大日本史料」、「小早川家文書」、「山内首藤家文書」、「毛利家文書」
- ・「山城探訪」 備陽史探訪の会

※付記 本稿の作成にあたり田口会長より史料の紹介、貴重な助言を戴きました。お礼申し上げます。